

【研修報告】

臨床指導者研修会 ～共に創るポストコロナ時代の看護学実習教育～ 報告

村田由香*

I. はじめに

2020年4月から、COVID-19感染症の感染拡大により、多くの看護学生は、臨地で実習することができないという状況が続いた。3年目になった現在も、本学では、第8波の影響により、未だに一部の学生の臨地実習ができない状況を繰り返している。施設の実習受け入れがない期間は、学内実習に切り換え、実習施設の協力を得て、オンラインでつなぐなど、学生の学びを止めずに、実習目標を到達できるよう苦慮している。

本学は、保健師課程、助産師課程の実習を含め、約50施設に実習の協力をいただいております。年1回、実習施設連携会議を開催し、情報共有や指導に関する研修会を開催している。

臨地実習という授業は、看護実践能力の育成に欠かせない、看護実践に必要な基礎的能力を習得する授業科目であり、カリキュラムの総時間数の1/3を占める。「看護学教育の在り方に関する検討会報告書」(文部科学省、2002)では、臨地実習の意義について「看護の臨地実習は、看護職者が行う実践の中に学生が身を置き、看護職者の立場でケアを行うことである。この学習過程では、学内で学んだ知識・技術・態度の統合を図りつつ、看護方法を習得する。学生は、対象者に向けて看護行為を行い、その過程で、学内で学んだものを自ら実地に検証し、より一層理解を深める。」と示している。このように学生の成長を促すためには、実習指導者の教育力・指導力が欠かせない。

そこで、本学では、2021年度より臨地実習指導者の指導力向上や新人教育の質向上に寄与することを目的に、臨床指導者研修会を開始した。実習指導者は、本臨床指導者研修会の受講により、看護実践の場に軸足を置き、看護学生の実習指導や現任教育に携わる指導者の指導力・教育力を磨き、そのことが、現場の看護の質向上に寄与すると考えている。

II. 臨床指導者研修会の概要

1. 年間プログラム(表1)

本研修会は、2022年度より、本学ヒューマンケアリングセンター事業の「臨床看護師連携部門」の運営として位置付けている。基本的には、本学での対面研修としているが、コロナ禍であり、所属施設の状況に応じて、Zoomによるオンラインでも参加可能とした。

本プログラムは、学生の理解、実習に必要な学習理論、教育方法を理解するために、自部署における実習指導、あるいは新人指導と振り返りも含め、計5回の内容により構成している。

講師は、ほぼ本学の教員で構成しているが、「発達障害及びその特性を持つ学生の理解と実習指導」は、産業保健相談員の西村氏に担当していただいた。

第1回は、本学の教育理念であるヒューマンケアリングを共通理解する目的で、絵本を用いてヒューマンケアリングの理解を深める内容とし、第2回では、実習指導計画を立案し、8月から9月にかけて、実習指導をしつつ、コーネル式のノートを各自で記載してもらった。第4回では、各自のノートの記述をもとに、実習指導の経験についてSEA法を用いてリフレクションするグループワークを実施した。第5回では、本研修会を通して学びになったこと、各自の課題、次年度の目標を受講者間で共有した。

2. 受講者

臨床実習指導役割のある人だけでなく、新人や後輩育成に携わる人など、だれでも受講可能であり、1コマ単位での参加も可能にしている。第1回31名、第2回45名、第4回39名、第5回36名、延べ151名が受講した。27名が全課程を修了し、修了証書を授与した。

* 日本赤十字広島看護大学

表1 令和4年度臨床指導者研修会プログラム

日時	時間	プログラム内容	講師
第1回 6/16 (木)	9:00- 10:30	開講式 / オリエンテーション 絵本で学ぶヒューマンケアリング	企画委員 教授 矢野博史
	10:40- 12:10	教育原理 - 教育という自明性の再検討	教授 矢野博史
	13:00- 14:30	教育方法 - 教授? 学習の基礎理論 -	教授 矢野博史
	14:40- 16:10	社会の変化に対応する高等教育としての看護基礎教育 と看護学実習	教授 村田由香
第2回 7/28 (木)	9:00- 12:00	リフレクションの概念	教授 田村由美
	13:00- 14:30	対人関係論	教授 戸村道子
	14:40- 16:10	実習指導の実際 実習指導計画立案	教授 村田由香
第3回 8~9月		自施設における臨床指導者実習 学習ポートフォリオの作成 (コーネル式)	自己学習
第4回 11/10 (木)	9:00- 12:00	実習指導のリフレクション	企画委員
	13:00- 14:30	看護理論 看護の概念, 看護の知と実習指導	教授 山村美枝
	14:40- 16:10	看護倫理 実習指導における倫理的課題	教授 川西美佐
第5回 12/15 (木)	9:00- 12:00	発達障害及びその特性を持つ学生の理解と実習指導	広島産業保健総合支援センター 産業保健相談員 西村浩二氏
	13:00- 14:30	教育心理 - 看護学生及び学習者の心理 -	准教授 丸山愛子
	14:40- 16:10	実習指導からの学びの共有 / 課題と今後の Challenge 修了式 / 修了証書授与	企画委員



写真1 SEA法を用いたリフレクション



写真2 第5回講義の様子

3. 2022年度受講者からの感想

第5回終了時に本研修会全課程について、アンケートを実施した。参加者36名中25名(回答率69.4%)から回答を得た。本研修会全課程については、90%が満足と回答された。満足の理由については「学生、新人指導に必要な学習内容が網羅されて

いた」、「現場で抱えている実習の疑問のヒントや答えになる充実した内容だった」、「リフレクションのSEA法や看護倫理のカード式事例検討法は実際に行って楽しかった」という評価を得た。また、「自分の指導経験を通して自身の指導を考え直す機会になった」、「指導に必要な知識を学ぶことで、根拠を

もって指導することができ、自信を持つことができる」という感想もあった。

また、今後実践してみようと思うことについては、「伝えるではなく、理解してもらえたいことを重視したい」、「短い実習時間の中でも学生や新人への気配りや目配りを行い、成長を見守り、協力したい」、「リフレクションを取り入れ、時間管理やかかわり方の工夫をする」や「病棟全員でかかわれる雰囲気づくりのために、師長の力も借りて取り組みたい」などの意見があった。さらに、「指導は相手の成長だけでなく、自身を振り返りながら自己の成長につなげていける、お互いの成長になる」など、ケアリングの視点での学びも深められていることがわかった。

Ⅲ. 今後の課題

看護学実習における実習指導は、実習指導者と教員との協働が重要である。本研修会では、授業担当の講師だけでなく、複数の教員が企画委員として、グループワークにファシリテーターの役割をもち、

参加している。コロナ禍での実習受け入れの状況や指導者の考え方などを共有することで、相互理解を深めることもできたのではないかと感じている。今後は、教員のファシリテーターとしての準備教育も必要と考えている。

COVID-19感染症の終息は見えない状況であり、今後も臨地での期間が短い実習が続くと予測される。実習指導者が、指導力を高め、自身の教育観、看護観も深めながら、自信をもって、楽しみながら学生の指導に関われるよう、実習指導者と共に創るポストコロナ時代の看護学実習教育の充実を図っていきたいと考える。

引用文献

文部科学省 (2002). 大学における看護実践能力の育成の充実に向けて 看護学教育の在り方に関する検討会報告. <https://www.umin.ac.jp/kango/kyouiku/report.pdf>. [2022/12/28 閲覧]